

小豆島および瀬戸内国際芸術祭のご案内 2016年 Vol. 2



photo by Hideaki Hamada

ご掲載・ご取材に関するお問合せ先
香川県小豆島町 PR Office: HOW INC.
Tel. 03-5414-6405 Email. info@how-pr.co.jp

小豆島とは

美しい海と山。雄大な自然に恵まれた小豆島は、長きにわたり、海の交流拠点としての役割を果たし、自然、文化、伝統、産業、人情など島のもつ魅力がじっくりと地層のように蓄積されてきました。400年の歴史を誇る醤油をはじめ、佃煮、そうめんなど食に関する産業が盛んで、日本でのオリーブ栽培発祥の地でもあります。また、壺井栄の名作「二十四の瞳」を代表とする文学や、中山農村歌舞伎を始めとする伝統文化にも恵まれた島としても知られており、映画やドラマなどの撮影も多く行われています。2010年から3年ごとに開催をされている瀬戸内国際芸術祭への参加を通じ、最近では、アートの町としても話題を集めています。今年は3回目となる瀬戸内国際芸術祭 2016 が開幕され、多くの内外のアーティストや地域の人々との交流が、人と人、島と島をつないでいます。瀬戸内の未来を拓く島を目指し、芸術祭に取り組んでいます。

小豆島概要

面積等： 瀬戸内海国立公園の中心部に位置し、広さは日本で19番目。20余の属島を含め、169.86km²の面積。

人口： 約3万人（2014年現在）

歴史： 古くは、吉備・備前の児島郡に属していましたが、弥生時代から塩が生産され、御名代地や皇室、神社などの塩荘園として発展。瀬戸内海の要衝にあつて、漁業、造船、廻船業も盛んで、豊臣家の蔵入地となり、さらに江戸幕府からも加子浦に指定されました。10世紀ごろから海賊の拠点のひとつであったともいわれ、紀州熊野水軍や伊予村上水軍とも連携があり、島の水軍利用のため、近世に幕府などの直轄地となります。江戸時代、高品質として知られた塩が生産過剰になると、醤油の産地に転換、素麺、石材などとともに、島の経済を支え、江戸中期には讃岐高松藩の預り地となり、後期には、島の東部が伊予松山藩の預りになるなど、離島らしいいくつかの変遷がみられました。明治になって香川県に所属、1878年に小豆郡を形成し、44を数えた村が次第に統合され、1957年に土庄町・内海町・池田町の3町になり、2006年には内海町・池田町が合併して小豆島町が発足し、現在は土庄町・小豆島町の2町から成っています。

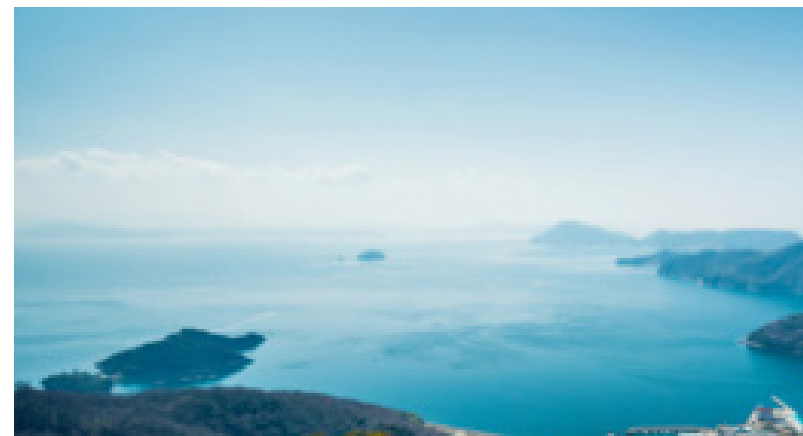
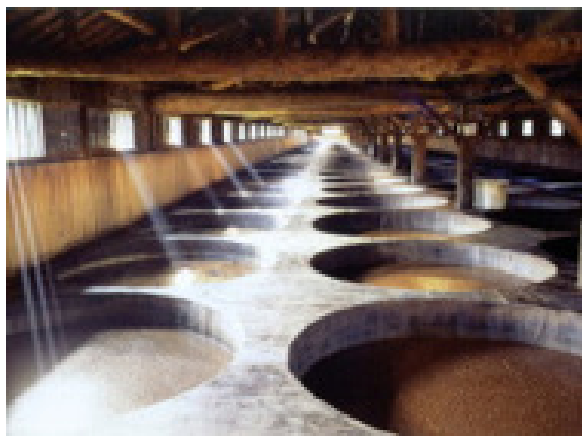
Setouchi Triennale 2016 / 瀬戸内国際芸術祭 2016

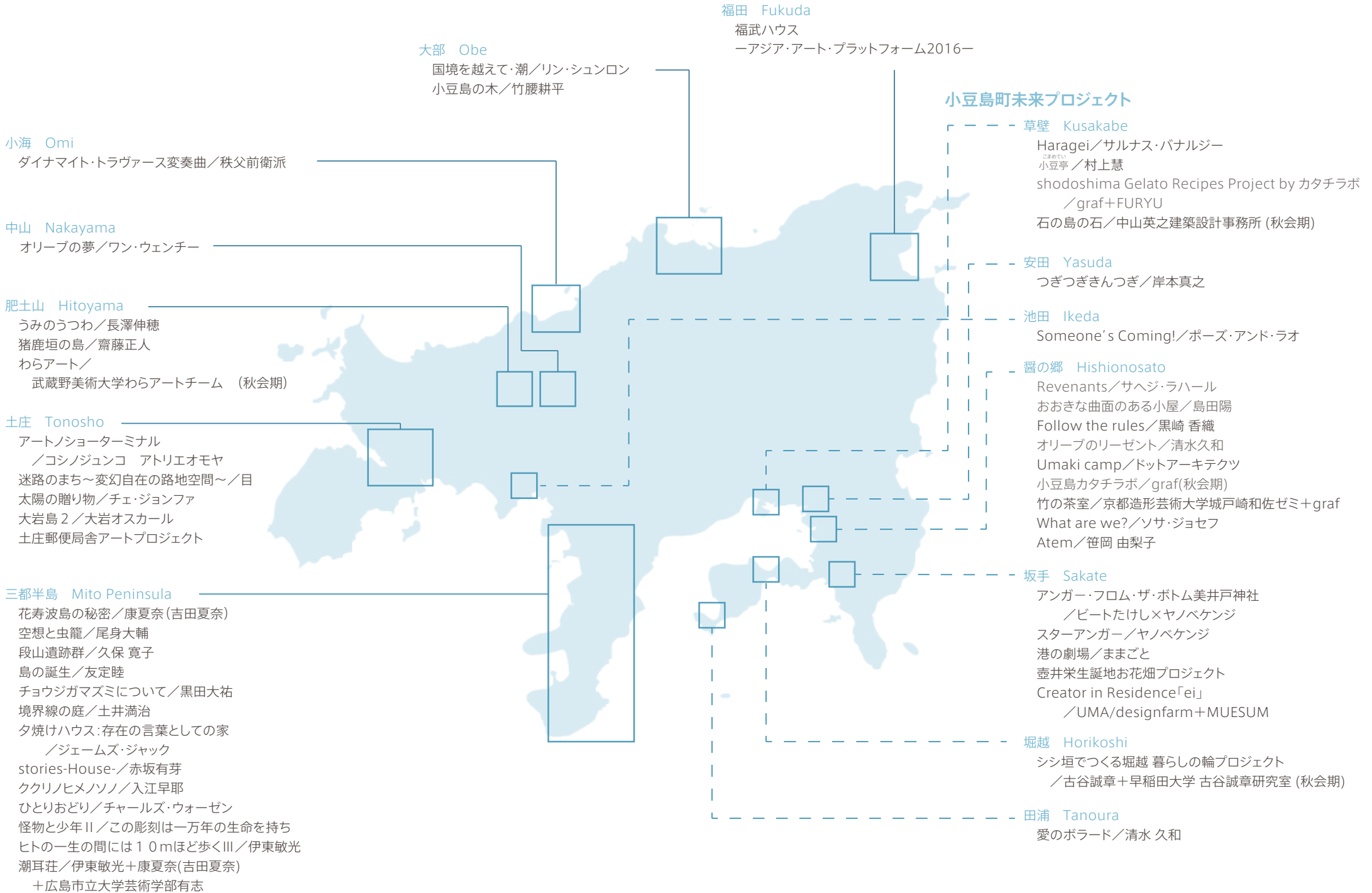
瀬戸内国際芸術祭は、引き続き地域の資源を大切にしたい新しいプロジェクトを展開するとともに、2010年、2013年の開催から活動を継続してきた各作家やプロジェクトにおいても発展性のある展開を図っています。小豆島にある6つの港全てでアートが展開されており、中でも京都造形芸術大学の椿昇（つばきのぼる）がディレクターを務める「小豆島町未来プロジェクト」では、インド人作家や日本の若手作家による作品展示や、小豆島の旬の食材を使用したジェラートのお店、小豆島の歴史ある資源である石を使った公共トイレの建築など、島の魅力を引き出すプログラムが多くあります。また、夏会期から展開している「福田」エリアでは、閉校になった小学校をアジア・アート・プラットフォームとして再生した福武ハウスを中心に、アジア諸国との交流や食などのプロジェクトを行っています。「三都半島」エリアでは、これまで行われてきた地域住民と芸術家の提携事業を発展させ、広島市立大学を中心にアートを介した交流を行っています。棚田の広がる自然豊かな「中山」エリアでは、ワン・ウェンチーの3回目となる竹のドームが建築され、連日多くの人で賑わっています。コシノジュンコとのプロジェクトや、砂浜に日本が承認する国を表す196体の子どもたちの像を設置した、リン・シュンロンの作品なども展開中です。

その他、各作品展示については、次ページ以降をご覧ください。

プレスツアーについて

小豆島へのプレスツアーを順次組んでまいります。ご興味のある方は個別にお問い合わせください。ご案内をお送りいたします。





福田 | Fukuda

小豆島の北東に位置し、姫路からの航路がある。良質の花崗岩を採石するエリアでもある。



photo by Yoshiro Mauda

《福武ハウスーアジア・アート・プラットフォーム 2016》

瀬戸内国際芸術祭 2013 で、建築家の西沢立衛が廃校になった小学校舎を展示空間へとリノベーションしアジア・アート・プラットフォームとして再生。小豆島の1つの集落を通してアジア諸地域がつながるプロジェクトとして、福田地区とアジア各所を拠点にしているアーティストが活動を通してお互いの理解を深めている。

夏会期からはじまったこの「福武ハウスーアジア・アート・プラットフォーム 2016」では、旧小学校舎を再生した「福武ハウス」、福田体育館を利用した「福田アジア食堂」、「福田家プロジェクト「きょく」、「葺田パヴィリオン」を展開する。

【福武ハウス】

6つの国・地域が参加する共同展を開催。地域の文化や個性が失われつつある現在、「忘れ去られてしまったものなかにこそ、価値があるのではないか」をテーマに展示会が行われる。

【福田アジア食堂】

瀬戸内国際芸術祭 2016 の大きなテーマでもある「食」を通じてアジアとの交流を図る「福田アジア食堂」は、アジア諸地域と地元、そして来訪者を食でつなぐ場である。今回からは、喫茶メニューも登場する。

開館時間 11時～17時

(最終入館 16時30分)

※食堂は16時閉店、15時30分

ラストオーダー。

休館日 月曜日

(祝日の場合、翌日休館)

草壁 | Kusakabe

小豆島の南に位置する港。降りたつと、目の前に日本三大渓谷美の寒霞渓が広がり、海岸沿いを走る沿道にはオリーブが日差しを浴びながら立ち並ぶエリア。



秋会期

《石の島の石》 中山英之建築設計事務所

秋会期に向け、建築中の「石の島の石」。大坂城修築にも使われた小豆島の石を使用して建築される公共トイレは、一部作業に地元の方が参加する。小豆島で昔から大切にされてきた「石」の魅力を外にアピールする。



photo by Kenryou Gu

こまめてい 《小豆亭》 村上慧

背負って歩くことのできる小さな蔵を作り、春会期中はそこに住み込み、食材持ち寄り製の鍋を行っていた村上慧。夏会期以降はそのアーカイブを展示する。島の人や観光客、アーティストの交流の場を目指した、一見「ゆるさ」とも取れるその裏に「食べないと生きていけないこと」に関する切実な問題を内包させている。村上慧は、今年「第19回岡本太郎現代芸術賞」に入選した。



《graf + FURYU · Shodoshima Gelato Recipes Project by カタチラボ》

瀬戸内国際芸術祭 2016 春会期の開幕とともに、大阪を拠点に活動するクリエイティブ集団 graf と地元のイタリアンレストラン FURYU のコラボレーションにより完成したジェラート店「MINORI GELATO」。草壁港の高速艇乗り場近くの倉庫をリノベーションした店舗では、季節ごとの小豆島産のフルーツや野菜（春 | いちごやスイートスプリング、初夏 | 青梅やすもも、夏 | すいかやもも、秋 | ブドウやオリーブ、棚田のお米、冬 | 柑橘類やキウイ）など、旬の食材を生かしたジェラートで小豆島の旬を楽しむことができる。



photo by Kenryou Gu

《Haragei》 サルナス・バナルジ

現代インド・日本の社会を絵画で表現。2軒の倉庫を行き来することで、彼が調査し、解釈比較したインド社会と日本社会を比較し、考察できる。

池田港 | Ikeda Port

小豆島の伝統産業である「そうめん」発祥の地であるこのエリアは、オリーブの段々畑が連なり、緑に囲まれた優しい風景が広がる。



《Someone's Coming!》
ポーズ・アンド・ラオ

目の前に海が広がる海岸を歩き、オリーブ畑にたどり着くロケーションでインド人作家による作品を展開。以前、真珠の養殖に使われていた小屋を改装したギャラリーを思わせる空間内で、キャンバスで飾ったパネルが、人の動きを察知し多様な動きを見せる。

* 海岸沿いを歩くため足元に注意。
満潮時通行不可の場合あり。

醤油の郷 | Hishionosato

白の漆喰壁に黒い屋根。400年もの伝統を持つ醤油蔵や佃煮屋が軒を並べ、醤油の香りが漂う風情豊かなエリア。ギャラリーをめぐるように、散策しながら作品を楽しむことができる。



photo by Kenryou Gu

《Follow the rules》
黒崎 香織

坂手の海上保安署の壁面、馬木の倉庫など3カ所で絵画を発表。コンピュータ・グラフィックスやポリゴン（立体を表現する際に用いるデータ）の持つ陰影に着目して絵を描き、絵の具でキャンパスの上に再び出現させる。



photo by Kenryou Gu

《What are we?》
ソサ・ジョセフ

インド・ケララ州出身の女性画家。旧醤油会館1階で個展形式で大型作品を展示。視覚的にフラットでメランコリックな色をつかった作品は、女性の視点ならではの、インド社会への懸念や人や動物への深い愛を感じることができる。

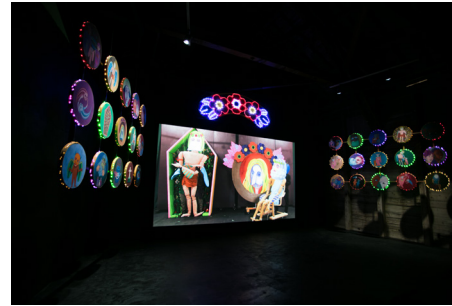


photo by Kenryou Gu

《Atem》
笹岡 由梨子

作者自身と等身大以上の人形イカロスたちが、冠婚葬祭をテーマに繰り広げる映像作品。ミュージカル仕立ての人形劇をインスタレーションとして展示。絵画や演劇など人間の身体による行為を強く感じさせるメディアをヒントに、新しい映像表現を試みる。



photo by Kenryou Gu

《Revenants》
サヘジ・ラハール

古い穀物倉庫を忘れさられた歴史を保管する倉庫へと改装した。小豆島で収集した廃棄物を主な素材とした斬新な遺跡が散らばった空間は、まだ訪れぬ未来をこだまさせ、我々を疑似遺跡探検へと招待してくれる。



photo by Kazumasa Harada

《Umaki camp》
ドットアーキテクツ

瀬戸内国際芸術祭2013で発表した作品。地域をつなぐ公共空間として建設され、自由に使えるキッチンやスタジオなど、地域の人や観光客らのコミュニケーション拠点として活用されている。ドットアーキテクツは、小豆島で【Umakicamp】と【美井戸神社】の建築を手がけ、2016年、世界最大の建築展であるヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館展示に参加。日本館は「縁」をテーマに審査員特別賞を受賞した。この夏、「小豆島建築ミーティング vol.3」を開催。

坂手港 | Sakate Port

醬の郷とほど近く、迷路のような路地にある集落で、京阪神との玄関港として人々が行き交う海をのぞむ地域。山岳霊場である碁石山などの神聖な山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれている。



photo by Hideaki Hamada

《港の劇場》
ままごと

2009年に劇作家・柴幸男により旗揚げされた劇団。瀬戸内国際芸術祭2013の「港の劇場」以降、小豆島に幾度となく足を運び、様々な演劇活動を行ってきた。この夏も、港全体を人々が行きかう場所＝劇場にする「港の劇場」を上演。新感覚の体験型演劇が繰り広げられる。



photo by Hideaki Hamada



photo by Hideaki Hamada

【小豆島 きもだめスイッチ】

夏の夜の坂手の町で繰り上げられる、3秒～30秒の小さな演劇。「スイッチ」を押すと「なにか」がおこる。

日時 8月20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)

場所 坂手港周辺

※チケット発売中

<http://www.mamagoto.org/ticket.html>

【喫茶ままごと】

小豆島特産の、そうめん、野菜を使ったフードが楽しめる喫茶店を会期中にオープン。パフォーマンス提供期間には、お客様からの注文を受けて、歌、演劇、ダンスなどを提供する。

パフォーマンス提供期間

8月12日(金)～28日(日)

場所 ei cafe (瀬戸芸坂手港案内所2階)

《Creator in Residence「ei」》
UMA/design farm + MUESUM

夏会期は建築家ユニット・ドットアーキテクツがデザインチームUMA/design farmと編集チームMUESUMと滞在制作を行った。

坂手地区の海と人の営み調査委を実施。漁の道具や船が収められていた小屋、山と海の間にある防波堤、海岸線に寄り付いた漂着物、海を眺める場所にあるベンチなどを調査し、さまざまな観点で分析し、成果を発表し、ものや語りに備わる人々の思考を記録、見えるかたちにした。

田浦 | Tanoura



photo by Kenryou Gu

《愛のポラード》
清水久和

瀬戸内国際芸術祭2013で発表された「オリーブのリーゼント」の作家、清水久和氏の新作。駐車場の一角に巨大なポラード（船を繋船するために岸壁にある柱）を設置。海からやってくるはずの「何か」に対して、見る者の想像力をかき立てる。どんな大きなものでもつなぎとめられそうで、力強く無表情でナンセンスな造形は、風景の中に開いた穴のように人々を引き留める。

設置場所：二十四の瞳映画村前駐車場

三都半島 I Mito Peninsula

山あいの中に、浜辺を望む集落が点在する。瀬戸内海に三方を囲まれ、どこからでも美しい夕陽を堪能できるエリア。2009年から地域住民と美術家との提携事業が営まれてきた。2014年より、新たに広島市立大学芸術学部彫刻専攻が動力となり、アートプロジェクトを継続的に展開している。



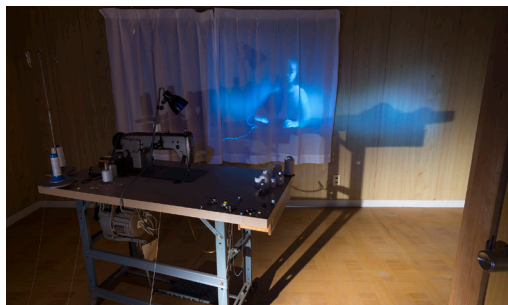
《段山遺跡群》
久保 寛子



《空想と虫籠》
尾身 大輔

段山に古代文明が存在したと架空の話を設定し、人体や建造物の断片、動物の立体作品を展示。「段山遺跡群」(段山に古代文明が存在したという架空の話を設定。休耕田に人体【足】【頭】や動物【イノシシ】の立体作品を設置している。

旧瓦工場にカマキリやバッタ、イネムシの木彫を展示。害虫と益虫、捕食者と被食者の関係を暗示する。



《stories -House-》
赤坂 有芽



秋会期
《潮耳荘》
伊東敏光+康夏奈(吉田夏奈)+
広島市立大学芸術学部有志

海添いに古材を用いた大型の立体作品を制作。海に向かって、ホルンのような形をした集音器が出ていて、内部空間全体に海の音が響く

年配の女性から聞いた話や古書などに想を得た映像を古民家に投影。夏には夜間イベントも行われる。

～「赤坂有芽「記憶の庭 光の箱」夜間イベント」～

静かな海辺の町に島の記憶が現れ、また、ワークショップで制作した提灯が夜道を照らし、幻想的な雰囲気を演出する。

日時 8月19日(金)・20日(土) 19:15-21:00

場所 神浦旧出水邸 赤坂有芽作品展示場所

中山 I Nakayama

小豆島のほぼ真ん中に位置する棚田や清流のある豊かな自然に囲まれた地域。人々は大地を耕し、暮らしてきた。大地の恵みへの祈りや感謝は、農村歌舞伎や虫送りなど、約300年の歴史を誇る伝統文化の花を咲かせ、今もなお日本の原風景を守っている。



《オリーブの夢》
ワン・ウェンチー

地元の人々が伐り出した約5000本の竹で作られた巨大なドーム。3度目の瀬戸内国際芸術祭となる今回は、小豆島らしくオリーブがテーマとなっている。鑑賞者は舞台のような内部を回遊し、中山千枚田と呼ばれる棚田の広がる里山に降り注ぐ光や谷間に吹く風を感じながら、思いのままの時間を過ごすことができる。

* 10月9日、作品のすぐ近くにある中山農村歌舞伎舞台において、毎年、地域の人々が演じる「春日神社奉納中山農村歌舞伎」が上演される。

—その他関連イベント情報—



photo by Natsumi Kinugasa

【愛のバッドデザイン in 小豆島】

オリーブのリーゼント（醬の郷）、愛のポラード（田浦）で作品を展開している清水久和によるデザインリサーチ活動「愛のバッドデザイン」。この活動の小豆島版として、島内の小学生や若者が中心となり、「愛のバッドデザイン in 小豆島」を展開。小豆島の日常生活のなかにある「愛のバッドデザイン」を2014年から約2年かけて探した。日常の中では見落としてしまっただけ、かけがえのない小豆島の生活風景の記録を島内2カ所（旧土庄小学校・オリーブナビ小豆島）で展示している。

メンバーは「愛のパン」や「LINE スタンプ」などオリジナル商品も企画販売しており、この夏、イベント「愛のマルシェ」や「愛のバッドデザイン in キャンドルナイト」も開催予定。

愛のマルシェ

【日時】8月21日（日）10:00-15:00

【場所】旧土庄小学校（土庄町甲 657-7）

【内容】そうめん流し、屋台、ワークショップ、愛のパン販売など

愛のバッドデザイン in キャンドルナイト

【日時】9月3日（土）18:00-20:30

【場所】旧土庄小学校

【内容】キャンドルナイトに夜店を出店。夜の作品展示も楽しめる。



【本から生まれる一冊～壺井栄と庚申の夜～】

「瀬戸内【食】のフラム塾」公認企画のイベント。毎月1回行われ、小豆島出身の作家：壺井栄の小説に出てくる当時の食事をヒントにしたメニューを地元のお母さんの手作りで提供する。

【日時】毎月最終土曜日 16:00-22:00

8月27日 会場：苗羽庚申堂

9月24日 会場：坂手瀬戸芸案内所2階 ei cafe



【産直市場・おにぎりバイキング】

秋会期開催予定の地元の東条地域農業集団と立命館大学及川研究室による地域のブランド米「安田の郷」を使用した体験型農家食堂がオープン。それにさきがけ、夏会期では地元でとれた農作物の販売と「食べたくなるふる里 会いたくなるおむすび」をテーマとした「おにぎりバイキング」を行い、安田の食の魅力を発信する。

【日時】毎週土曜日

・産直市場 9:00-

・おにぎりバイキング 11:00-14:00

【場所】ファームステーション安田の郷

瀬戸内国際芸術祭 2016 開催概要

名称： 瀬戸内国際芸術祭 2016/Setouchi Triennale 2016
 期間： 春 3月20日(日・春分の日) - 4月17日(日) 29日間
 夏 :7月18日(月・海の日) - 9月4日(日) 49日間
 秋 :10月8日(土) - 11月6日(日) 30日間
 ※ 会期総計：108日間
 ※ 小豆島はシルバーウィーク(9月17日-25日)も作品をご覧いただくことができます。
 (パスポートの使用不可)

会場： 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島(春会期)、本島(秋会期)、
 高見島(秋会期)、粟島(秋会期)、伊吹島(秋会期)、高松港周辺、宇野港周辺

テーマ：海の復権

「島のおじいさんおばあさんの笑顔を見たい。」一人々が訪れる“観光”が島の人の“感幸”で、芸術祭をきっかけに島の将来の展望につながって欲しい。この想いが、当初から掲げてきた目的=『海の復権』です。昨今の、世界のグローバル化・効率化・均質化の流れの中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力の低下により島の固有性が失われつつあります。私たちは、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内国際芸術祭を開催しています。

新規作家アーティスト一覧

http://setouchi-artfest.jp/images/uploads/pdfs/j_2015tokyo_artists.pdf

作品鑑賞パスポート、フェリー乗り放題3日間乗船券について

<http://setouchi-artfest.jp/ticket-goods/>

<http://setouchi-artfest.jp/files/ticket-goods/passportshoplist-jp.pdf>

交通案内

小豆島は、瀬戸内海で2番目に大きな島です。本土からの橋はなく、必ず船に乗ります。船に乗ると国内旅行でも、どこか特別な感覚を覚えます。夕暮れのフェリーでは、瀬戸内海のサンセットをお楽しみいただくことができます。また、東京からお越しの場合には、新幹線のほか、羽田ー高松を飛行機で移動しフェリーに乗っていただくのが快適です。

